

(様式第 12 号)

活 動 計 画 書

< 記載事例 >

平成〇年〇月〇日策定

〇〇の森保全の会

森林・山村多面的機能発揮対策交付金に係る活動計画書

1. 組織名 活動組織の名称を記載

〇〇の森保全の会

2. 所在地 活動組織の所在地を記載

〇〇県〇〇市〇〇1-2-1

3. 地区の概要、取組の背景等 対象地区の概要、取組に至る背景等を記載

〇〇市〇〇地区は・・・により、集落で先祖代々守り続けている〇〇の森が荒廃してきた。このため、地域住民（〇人）とNPO法人〇が「〇〇の森保全の会」を設立し、〇〇の森を整備し、間伐体験や炭焼き体験を開催し、地域住民と都市住民の絆の森とし、地域の活性化を進める。

4. 取組概要

〇地区にある〇を中心とした広葉樹林について〇〇の森保全の会メンバーによる雑草木の刈払い、集積、処理場までの運搬を実施。整備後に〇を植林、遊歩道の整備（一部急峻フィールドについては作業委託を実施。0.5ha）。また、一部のフィールドにおける孟宗竹の除去を実施し、チップパーによる処理後遊歩道へ敷設する。対象林地内に炭焼き小屋を整備し、フィールド内の0.5haから炭及び薪ストーブ用の原木の間伐を行い（教育・研修活動タイプと組み合わせて環境教育、間伐体験を実施）、地域内外の住民への炭焼き体験も実施する。

5. 構成員の概要 活動組織がどのような構成員からなっているかを記載

※構成員の居住地（どのような地域から参加しているか）、職種、経歴、所属団体等、構成員の多様性がわかるように記載すること。

〇〇の森保全の会は、主に〇〇市〇〇地区の住民が集まった組織であり、構成員40名のうち35名が同地区の住民である。その他の構成員は〇〇市内他地区が4名、県外1名となっている。本活動組織は地域の住民を核に作られた組織であるため職種は林業、自営業、事務等様々である。所属団体については、森林関係のNPOに所属している者が10名、環境保全に関する市民団体8名などからなる。

6. 地元の自治体、自治会、集落等のニーズに対応するなど地域の活性化への寄与

地元自治会で〇〇の森の荒廃が問題視されており、自治会の中から有志で〇〇の森保全の会を立ち上げて森林整備を行う。〇〇の森は市有林であり、財政状況が厳しい中で、市でも十分な管理が行えていない場所である。このことから、市の方からも協定を結び、地域住民で管理をして貰えるのであればありがたいとの声をいただいている。

7. 年度別スケジュール

取組概要	〇〇年度		〇〇年度		〇〇年度	
1. 活動推進費	林況調査及び活動についての詳細な打合せ					
2. 実践活動						
A-1 地域環境保全タイプ (里山林保全)	雑草木の刈払い、集積、処理	3 ha	雑草木の刈払い等保全管理	3 ha	雑草木の刈払い等保全管理	3 ha
A-2 地域環境保全タイプ (侵入竹除去、竹林整備)	侵入竹の除去、チップ処理	0.5 ha	侵入竹の除去、チップ処理	1.0 ha	侵入竹の除去、チップ処理	1.5 ha
B 森林資源利用タイプ	炭焼き・薪原木の伐採(空間利用と組み合わせ)	0.5 ha	炭焼き・薪原木の伐採(空間利用と組み合わせ)	1.5 ha	炭焼き・薪原木の伐採(空間利用と組み合わせ)	1.5 ha
C 森林機能強化タイプ	作業道の作設・補修	100 m		m		m
		ha	森林資源利用タイプの活動	1 ha	森林資源利用タイプの活動	1 ha
D 教育・研修活動タイプ	環境教育及び炭焼き・薪原木の伐採体験	1回	環境教育及び炭焼き・薪原木の伐採体験	5回	環境教育及び炭焼き・薪原木の伐採体験	5回
2-1. 間伐等(除伐・枝打ちを含む)実施面積 人工林だけでなく天然林や竹林についても入れること		3 ha		4 ha		4 ha
2-2. 活動を始める時点で長期にわたり手入れをされていないと考えられる森林を整備する面積 施業履歴等を確認する必要はなく、荒廃している等の場所であれば面積を記入すること。このとき、面積はおおよそその面積で記載し測量等を行う必要はない。		2 ha		1 ha		0 ha
3. 資機材・施設の整備	炭焼き小屋整備 薪割り機1台		薪ストーブ1台設置			

※1 延長には森林調査・見回りを除く。

※2 2のCの森林機能強化タイプの森林面積については、スケジュールの期間内に地域環境保全タイプ又は森林資源利用タイプにより森林整備を実施する面積を記載する。

※3 2-2については、2年目以降はその前年度までの活動により該当する森林の整備を実施している場合はその森林の面積を除外し、その年度に新たに該当する森林の整備を実施する面積を記載する。

8. 活動の目標と活動結果を測定するためのモニタリング方法（地域環境保全タイプ及び森林資源利用タイプについて記載）

森林の状態を知り、森林の多面的機能がより効果的に発揮される作業を行うことを目的に、事業の開始前と後に、各組織でモニタリング調査を行う。下表は、目標に対するモニタリング方法の例。

タイプ名	目 標	モニタリング方法
地域環境保全タイプ (里山林保全)	・ 里山の高木林を育成する ・ 人工林をきれいにする	木の混み具合調査
	里山林を再生・維持する	萌芽再生率調査
	希少種を保護する	植生調査
地域環境保全タイプ (侵入竹林除去、竹林整備)	・ 侵入した竹を除去する ・ タケノコをとれる竹林にする ・ 竹林景観を守る	竹の本数調査
森林資源利用タイプ	木質資源を継続的に生産・利用する	幹材積量調査
	林産物を継続的に生産・利用する	資源量調査

(注) 目標の設定及びモニタリング方法の記載については、別に定めるガイドラインを参考とすること。

9. 年度別に実施する安全講習等の名称及び内容

自前で開催する安全講習会の計画を、必ず年に1回以上記載

年 度	講習の名称	講習の内容
〇〇年度	チェーンソー安全講習会	ジット島根から講師を呼び、会員に向けた講習会を開催する。
〇〇年度	伐倒安全講習会	ジット島根から講師を呼び、会員に向けた講習会を開催する。
〇〇年度	チェーンソー安全講習会	外部の安全講習会に出席した会員が講師となり、会員に向けた講習会を開催する。

10. 安全のために装備する物品及び傷害保険の名称 具体的な装備・保険の名称を記載

ヘルメット、防護服
〇〇保険

11. 4年目以降の活動（森林管理）計画 4年目以降の取組の方向性について記載

4年目以降も〇〇の森の保全管理を継続して実施。また、近隣の都市住民からも幅広く維持活動に協力していただける活動を継続し、地域の里山を維持・発展させる予定。

12. 計画図（協定の対象としている区域の図面）

取組の実施箇所の森林計画図を添付すること。森林計画図がない場合は、対象森林の面積が分かる縮尺5,000分の1以上の図面を添付すること。添付した図面に、計画期間中の各タイプの活動内容及び森林経営計画及び森林施業計画の策定の有無を図示すること。また、森林機能強化タイプにおいては、改修等を実施する路網や鳥獣被害防止柵を図示すること。

別活動エリアが明記されているもの)。森林簿、森林計画図がない場合は、対象区域が分かる図面を使う。

1.3. その他

(1) 写真

取組の実施箇所に長期にわたり手入れをしていなかったと考えられる里山林がある場合はその写真を添付すること。

荒廃した様子の分かる代表的な写真を1~2枚程度添付する。

(2) 収入

会費、林産物収入など森林・山村多面的機能発揮対策交付金以外の収入を記載すること。

会費の徴収がないと採択の対象とならないため、組織規約（様式第10号第15条）と併せて必ず記載する。

会員から、年間1,000円の会費を徴収。

(3) 委託

取組を委託する場合は、次を記載すること。

活動計画における取組についての委託

- 委託機関名

〇〇森林組合

- 連絡先（電話番号等）

〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇

- 委託時期

29年7月

- 委託内容（委託する区域の林小班、委託業務の内容（面積、作業の内容）等）

急峻な〇小班的刈払い及び処理作業

- 委託金額

150,000円

※活動を作業委託する場合は、活動組織としての活動を活動計画の中で必ず明記すること。活動全てを委託することはできない。